

情報連絡員だより

－平成30年10月分の報告より－

非製造業がけん引し
7ヶ月ぶりに雨がやむ

業種 / 景況天気図		概況
全	体	全体として、7ヶ月ぶりの業況改善となった。製造業では5業種ともに現状維持にとどまったのに対して、非製造業では、5業種のうちサービス業及び建設業を除く3業種で業況が改善した。特に、卸売業や小売業の回復が目を見守る。一方で、燃料価格の高騰や自動車メーカーのリコール問題等、懸念材料も存在。
製 造 業	食料品	パンは、前年並みに推移。菓子は、売上は前年並みとなるも小豆等の原材料高騰の影響で収益減少。製麺は、前月よりも荷動きが良くなったものの、売上・収益ともに昨年を下回る状況。酒造は、本醸造酒と普通酒の落ち込みが大きく売上・収益ともに減少。食肉は、豚肉相場の下落を処理頭数がカバーし売上増加。
	繊維・同製品	桐生織物は、婦人服地の「梅春物」が昨年同様の引き合いとなっているが、輸出向け・和装織物が低調に推移。伊勢崎織物は、広巾織物が順調な反面、小巾織物が低迷しており売上は前年並みの状況。ニットは、前月の反動で冬物の出荷が落ち着き売上減少、今後の追加発注に期待感。繊維製品は、前年並みの状況。
	窯業・土石製品	コンクリートブロックは、大きな変化は見られず前年並み。生コンは、八ッ場ダム関連で出荷量が大幅に増加したものの、全体としては売上・収益ともに前年並みとなる。コンクリート製品は、地域ごとの景況感に格差が見られ、全体としては売上減少となる。砕石は、八ッ場ダム関連を除いて全体的に低調に推移。
	機械・金属	SUBARU関連は、生産状況については昨年と同水準を維持しているが、リコール問題等の今後の影響を懸念。電機関連は、前月同様、多忙となっており半導体関連を中心に好調を維持。鍍金は、半導体・電子部品が好調な一方、自動車部品関連がやや下降気味となっており今後の業況悪化を懸念。
	その他の製造業	ゴム製品は、自動車関連を中心に好調となっており売上増加。木材は、荷動き自体は悪くないが、原木の減少による仕入れ価格の上昇で収益悪化となる。紙加工品は、飲料・電気関連が好況であるが、全体的にバラツキがあり低調な状況。印刷は、大幅な受注減少となっているが、年末需要に期待感が見られる。
非 製 造 業	卸売業	高崎卸団地は、前年並みに推移。前橋卸団地は、原材料高や人件費の増加が引き続き課題となる中、今後の燃料費の高騰を懸念。太田卸団地は、リサイクル関連が好調で、全体的な業況に明るさが見られる。農産物卸は、高値相場が続いたことで売上増加。水産物卸は、前年不漁だったサンマ漁が安定し売上増加となる。
	小売業	中古車オークションは、初開催したイベントが売上増に寄与。燃料小売は、販売価格上昇により収益確保。生花小売は、前月までの天候不順の影響で卸値が高騰し収益減少。商店街は、各地で秋のイベントを開催、一部では売上の増加も見られる。家電は、エアコンが好調な一方、4Kテレビが不調で売上は前年並み。
	サービス業	温泉旅館は、四万・伊香保では紅葉シーズンに入り客足良好となるが、草津は志賀草津道路閉鎖に伴う団体ツアー客の減少が見られる。不動産取引は、消費税増税に伴う駆け込み需要が若干見受けられたものの、前年並みに推移。自動車整備・建築設計は、大きな変化はなく売上・収益ともに前年並みとなる。
	建設業	建設工事は、公共工事・民間工事ともに少なく売上減少。解体工事は、大型物件の発注が多く好況。電気工事は、例年並みの受注状況。塗装工事は、県内の仕事が減るも県外の仕事が増えたことで例年同様の推移。鉄構は、工場稼働率は良いものの、図面遅れや工期遅れの影響で、売上は前年並みとなる。
	運輸業	全体的に、燃料の高騰が収益に大きな影響を及ぼしている。このため、多くの企業が運賃の値上げ交渉に動く様子が見られる。野菜関連は、天候に恵まれ全体的な収穫量が多かった影響で輸送量増加。小口配送は、建材関連が減少したものの、PET検査薬と遠方輸送が増加したことで全体的に売上増加。